

今年も早 2 月が過ぎ、梅の開花の便りも聞かれました。季節は春へと向かっています。

皆さまいかがお過ごしですか？

この一年はコロナの感染拡大で日本国中、いえ、世界中が大変な状況に置かれてきました。

そのような状況の中、今年 10 年目の 3 月 11 日を迎える矢先に、今月はまた東北で大きな地震がありました。3.11 の余震だとか。1 年ほど前からのコロナウイルス災禍にばかり気持ちが行ってしまって、忘れがちになっている震災の事をまた、覚えさせられています。

先日、私にある写真が送られてきました。10 年前の 2011 年 8 月 27 日におこなわれた復興支援チャリティーコンサートのチラシでした。私は、このコンサートに行き楽しんだはずなのに、とっさに思い出せず、思わず「これ何時のですか？」と確認してしまいました。3 月に大震災が起これ、この主催した方はすぐに復興支援を決め 4 か月後に公演していたのです。

地震や津波に対する災害警告は、私が生まれ育った静岡県では常に言われており、地震は来るのは明日でもおかしくないと言われて育ってきました。だからあの地震の時の燃えさかる海や原発の事故がそのまま自分の住んでいる地域であってもおかしくなかったのです。石巻、気仙沼、陸前高田人々の暮らしが一瞬で消し去られたように、東海の住む人たちの暮らしもまた同じだとイメージしなくてはいけません。人の日常がこんなに脆いものであることを実感させられたのです。

この頃は、仕事も退職し、私のこれからの人生をどう生きようかとある意味で人生の節目を迎えているときでした。自分の目先の事ではなく、お互いに他の人のために行動すること、人が生きていく方向を示された気がしました。



この震災の記憶が薄れ、非日常がいつの間にか日常になって来た時、コロナ感染拡大の兆候が表れ、下旬には公共施設、学校の休業の要請がされました。4 月には緊急事態宣言。今まで普通に仕事に行き、学校へ行っていた、それぞれの日常生活が急に停止しました。不要不急の外出は自粛してほしいと言われてきましたが、買い物はとりあえずよさそうです。社会はどのようにして回るのでしょうか。学校の様に、今日から会社がなくなりましたという事にはなりません。もし止まったら物流は止まり、ライフラインも止まります。そう考えるだけで、今の日常生活がどんなに多くの人の仕事で支えられているのか、そこで働く人々、寄り添う家族、分断される悲しみ、湧き上がる差別や暴力。一人一人の生活に思いを馳せる貴重な時ではなかったかと思わされます。



さて、ブランチは、昨年 2 月に大学生が引っ越し、一部屋空いたままです。入居者の募集はしていますが、この一年、色々な方が、この場所を覚えて下さっていることを痛感しています。

少し、お知らせします。

・昨年 3 月下旬に海外ボランティアをしている息子が緊急帰国となり、各国が次々に出入国禁止になる中で綱渡りの様にしてなんとか帰国しまし

それまで、私はその場所にいたほうが、色々な国を通して帰ってくる危険性を考えるよりいいのではと考えていました。しかし国外では、日本と同じ安全な環境にあるとは限らないのです。日本もまた、パンデミックの中にある緊迫感を初めて持ちました。そして、帰国して緊急にブランチに住むことが考えられましたが、ある程度の生活保障がされることや日本での仕事(来られなくなった海外研修生の補充要員など)をする必要があり、そちらに向ったのです。

•このブランチを立ち上げる時に、実はもう一人入居希望の方がいました。けれどまだお元気であることや、娘さんの援助を受けられるからと辞めたのですが、5月自転車に乗っていて転倒。

コロナ禍の入院生活はとても大変だっただろうと察しがつきます。とにかく、家族や親しい人とは面会が出来ないので。リハビリで頑張ってこれ無事退院。しかし自宅での生活が難しく、ブランチで過ごせないかの相談がありました。一度は共同生活を考えていたのですから人物的には良く知っていますが、問題はどうか介助(支援)出来るかです。けれど、それは生活して時間をかけて出来ていくものと考えられました。

今は老人保健施設にいますが、次の生活の選択肢の中に、自分らしく生活したいとブランチを思い出してくれたのは、嬉しいことでした。また、このようなことを通して、疎遠になりがちであった娘さんとの関係も回復出来たようです

•このコロナ禍で、外出が自粛され、閉じ籠りの生活

を余儀なくされた方も多いと思いますが、ある方も、リモートでの仕事を続けていましたが、外出できないことで、精神的に不安感も強くなりました。そこで、ちょっと気分転換という滞在の仕方でも過ごして頂きました。静かに過ごせるゲストルームを使用して頂きました。

•高齢のお一人暮らしの方がいます。コロナ禍で、一層、外出もできないまま。暖房は？買い物はどうされているでしょう。雪のある冬だけでも利用出来たら、安心かなと思います。



生きてきた歴史や置かれている環境によって、突き当たる問題は違います、

どれだけ理解し受け入れられるか、迫られるものがありますが。けれど、ブランチが必要とされている方に利用してもらえることは、本当に嬉しいことです。

世界でワクチン開発が競ってなされ、現実的になってきています。これからワクチン接種が多くの人に行き渡り感染の不安感は瞬く間に解消してしまうかもしれません。けれど、このような災禍はこれからも人の生活を襲うでしょう。多くの問題はもっと複雑になっていきます。その時に何を一番に大切に暮らすのか、常に考えていたいと思います。

一日も早く大切な方々と、握手の再会ができますよう。

「貧しい者がかすめられ、乏しいものが嘆くゆえに、わたしは今立ち上がって、彼らとその慕い求める安全な所に置こう」 詩篇 12:5



Branch 山科 (松本)